

**朝霞市まち・ひと・しごと創生総合戦略
効果検証結果
(平成29年度実績)**

平成30年8月

朝霞市

基本目標1. 産業の活性化と働きやすい環境づくり

朝霞市の産業の活性化、雇用創出を図り、働きながら生活も充実させたい市民の希望を叶え、暮らしやすいまちを目指す。

数値目標	単位	策定当初の実績値	目標値	備考
民営事業所従業員数の向上	人	40,003	41,000	平成21年度から平成26年度にかけて-3.7%と減少が続く状況に歯止めをかけ、5年前と同程度まで向上させる
		(H26)	(H31)	
女性就業率(30～39歳)の向上	%	61.2	64.5	平成22年度の女性就業率の全国平均64.5%を達成する
		(H22)	(H31)	

審議会コメント

1. 地域経済の活性化状況を測る指標として、例えば、市内にある駅の乗降者数を指標の一つとしてはいかがか。第2回会議の【資料6】のデータから、東武東上線朝霞台駅、JR武蔵野線北朝霞駅はいずれも県内上位の乗降者数があり、地域経済に対しプラスの影響があると読み取ることができる。
2. かつて栄町の準工業地域には、多数の事業所が立ち並んでいたが、市外への流出が相次ぎ、跡地に多くのマンションができています。他の地域でも、積水化学工業や富士フィルムが撤退している。このような状況の中、産業の活性化や雇用の創出を図る上で、計画的に工業団地等を整備することは、適地もなく、財政的にも困難であるため、市の支援により起業を促進することは、地域的な施策としては妥当であると考えます。
3. 内間木地区は変わらず資材置き場などでの土地利用が多い。国道254号線の早期完成とともに適切な開発が行われるよう、市として今後企業誘致を進めるにあたっては、産業振興施策が展開しやすいまちづくりを念頭におきながら検討してほしい。
4. 取組方針(1)について、「③商店街店舗数」が減少し、「④中小企業融資実行件数」では埼玉県保証協会による審査の結果によって8件が融資取り下げとなっているが、市として積極的なフォローアップが必要ではないか。
5. 朝霞市の地域性を考えると、市民の多くは職場が市外であることから、朝霞市内への企業誘致や雇用の創出だけに取り組むのではなく、質の高い住宅の整備や、市の経済が活性化するような商業施設をつくることなどについても、市が主導して押し進めていくことが重要ではないか。工場を誘致して税収を上げようとか、市内で雇用を創出しようという従来型の産業振興施策からの発想転換が求められる。市民の中には、市内に商店が少なくても、交通の利便性が良いので、市外の商店を利用できるから不自由していないと考えている人も多いかも。市民の意向を分析し、朝霞市を住みやすく、働きやすいまちにしていくための産業振興施策について、現在策定中の産業振興基本計画の中で明らかにしてほしい。
6. 例えば、朝霞市の特産品を扱う「ふるさと物産館」のような店舗(施設)が朝霞駅や朝霞台駅・北朝霞駅などの駅前にあれば、市を訪れた人を惹きつける魅力の一つとなるのではないか。全国的にも6次産業化の振興が注目される中、農商工連携という産業振興施策も視野に入れて検討してほしい。

基本目標	1	産業の活性化と働きやすい環境づくり
取組方針	(1)	市内産業の活性化と雇用創出
担当課	産業振興課	
概要	既存産業の活性化とともに新たな起業や事業者の誘致を図り、本市における産業振興、雇用創出を実現する。	

1. 重要業績評価指標(KPI)

指標名	単位	策定当初	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
		目標(年度)	目標	目標	目標	目標	目標
		実績(年度)	実績	実績	実績	実績	実績
① 市の支援による起業件数	件	157 (H31)	35	80	105	130	157
		56 (H26)	59	68	71	—	—
② あさか産業フェア参加事業所数	事業所	68 (H31)	40	67	67	68	68
		63 (H26)	60	60	63	—	—
③ 商店街店舗数	店舗	592 (H31)	590	590	591	591	592
		587 (H26)	571	571	574	—	—
④ 中小企業融資実行件数	件	56 (H31)	55	53	54	55	56
		51 (H26)	58	35	51	—	—
⑤ 有効求人倍率(ハローワーク朝霞管内)	—	1.0 (H31)	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
		0.48 (H26)	0.58	0.73	0.93	—	—

2. 進捗状況(KPIの達成状況、未達成の理由等について説明)

市の支援による起業件数、朝霞産業フェア、商店街店舗数、中小企業融資実行件数、有効求人倍率で目標を下回っている。

①市の支援による起業件数

起業の件数は、目標を下回っているものの、セミナーや相談には、毎年コンスタントに希望があり、一定の成果を挙げているものと認識している。

②あさか産業フェア参加事業所数

参加事業所は、商工会の会員であることが要件となっており、参加事業所が固定されていることが目標達成に至っていない要因であると思われる。

③商店街店舗数

駅前等の繁華街においては増加している商店街もあるものの、駅から離れた商店街については減少傾向にあり、相対してほぼ横ばいとなっている。

④中小企業融資実行件数

申込自体は、59件と目標を上回ったものの、うち8件が埼玉県保証協会による審査の結果融資取り下げとなったことで、目標達成には至らなかった。

⑤有効求人倍率

有効求人倍率については、上昇傾向にあるものの、目標達成には至っていない。埼玉県内の同時期の有効求人倍率が1.43なのに比べて低いのは、市内の事業所が小規模企業が中心であることが要因と思われる。

3. 今後の方針(主な取組に変更があれば記載)

平成30年度に策定する、朝霞市産業振興基本計画において方針を示し、市内の産業振興等を推進していく。

○朝霞市産業振興基本計画(平成29年度から平成30年度にかけて策定中)

策定趣旨:産業を振興していくために目指すべき姿と、それを実現するための施策をまとめるもの。

①市の支援による起業件数について、女性の社会進出が注目されている中で、起業セミナー及び就職支援セミナーいずれにおいても女性限定のセミナーを新たに開催するとともに、起業セミナーにおいては、保育を実施することで、より参加しやすい環境を新たに整えた。今後も目標達成に向け、毎年度新しい取組を実施することで、様々なニーズに応えていく。

基本目標	1	産業の活性化と働きやすい環境づくり
取組方針	(2)	市民の仕事と生活の両立を実現するまちづくり
担当課	産業振興課、保育課	
概要	労働意欲のある市民への支援を充実させ、勤労者が仕事と生活のバランスのとれた、暮らしやすいまちを目指す。	

1. 重要業績評価指標(KPI)

指標名	単位	策定当初	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
		目標(年度)	目標	目標	目標	目標	目標
		実績(年度)	実績	実績	実績	実績	実績
① 多様な働き方実践企業の市内認定数	社	29 (H31)	19	28	28	29	29
		18 (H26)	27	29	33	—	—
② 待機児童数	人	0 (H31)	0	0	0	0	0
		38 (H26)	47	79	114	—	—
③ 放課後児童クラブ入所保留者数	人	0 (H31)	0	0	0	0	0
		57 (H26)	141	101	75	—	—
④							
⑤							

2. 進捗状況(KPIの達成状況、未達成の理由等について説明)

①多様な働き方実践企業の市内認定数

目標は達成しており、また、昨年度から新規認定が4社増えている。多様な働き方そのものが社会に浸透してきた結果ではないかと思われる。

②待機児童数

平成28年度に保育園4園、小規模保育3施設の整備を行い、さらには、平成29年度にも保育園3園、小規模保育3施設を整備し、受け入れ枠を増やしたが、KPIである「待機児童数」の年度目標値を達成できなかった。保育園を申込みれる方は増加傾向にあるため、今後も保育園等の整備を進めていく必要がある。

③放課後児童クラブ入所保留者数

放課後児童クラブは、増加する入所希望に対応するため、一部の小学校の教室等を活用することや、平成28年度には民間放課後児童クラブを2か所整備し、さらには、平成29年度にも民間放課後児童クラブを3か所整備し、受け入れ枠を増やしたが、放課後児童クラブを申込みれる方は増加傾向にあるため、「放課後児童クラブ入所保留者数」の年度目標値を達成できなかった。今後も民間放課後児童クラブの整備を進め、受け入れ枠の確保に努める必要がある。

※実績値(策定当初)の修正について

②待機児童数:第7回審議会(平成28年5月30日開催)で47から38へ修正

③放課後児童クラブ入所保留者数:第7回審議会(平成28年5月30日開催)で141から57へ修正

※目標値、実績値の修正について

①多様な働き方実践企業の市内認定数:第7回審議会(平成28年5月30日開催)で23から29へ修正

※②待機児童数、③放課後児童クラブ入所保留者数の実績値について

平成27年度の欄には平成27年4月1日時点の値を、また平成28年度の欄には平成28年4月1日時点の値を記載

3. 今後の方針(主な取組に変更があれば記載)

①多様な働き方実践企業の市内認定数

引き続き、埼玉県や商工会と連携して、新規認定企業の増加を目指していく。

②待機児童数、③放課後児童クラブ入所保留者数

今後も、「朝霞市子ども・子育て支援事業計画」に基づき、保育園等及び放課後児童クラブの整備を進め、受け入れ枠の確保に努める。

なお、平成29年度の待機児童が114人(旧定義58人)となった状況を踏まえて、待機児童の解消に向けて、平成29年8月に「朝霞市待機児童緊急対策」を策定している。

◆緊急対策1 認可保育園及び小規模保育施設等の新設による定員の拡大

◆緊急対策2 幼稚園の預かり保育の拡充

◆緊急対策3 保育士の処遇改善及び保育士確保のための支援

◆緊急対策4 市指定家庭保育室への支援の継続

また、放課後児童クラブの入所が保留となった小学4年生から6年生までの児童を対象として、下校後にランドセルを背負ったまま直接児童館に行き、遊ぶことができる「児童館ランドセル来館事業」を平成30年4月から開始している。

基本目標2. 地域の特徴を生かした選ばれるまちづくり

多くの人に転居の際に居住先として朝霞市を選択していただけるようまちの魅力をPRし、市民であることを誇れて、長く住み続けたいと思えるまちを目指す。

数値目標	単位	策定当初の実績値	目標値	備考
これからも朝霞市に住み続けたいと考えている市民の割合の向上	%	84.8	90	市民意識調査における「ずっと住み続けたい41.5%」、「当分は住み続けたい43.3%」の回答割合を向上させる
		(H25)	(H31)	
朝霞市が好きと感じている青少年の割合の向上	%	81.9	85	青少年アンケートにおける「好き38.5%」、「まあ好き43.4%」の回答割合を向上させる
		(H25)	(H31)	

審議会コメント

- 基本目標2「選ばれるまちづくり」とあるが、市民がこのまち（朝霞市）を選んだ理由の分析をし、選ばれる朝霞市にするため、市民のニーズを的確に捉え、満足度を高めるべきと考える。
- 駅前だけでなく、地域に偏らず、バランスに配慮したまちづくりを進めてほしい。保育園等の待機児童の話にも関わるが、一箇所に集中しないまちづくりが重要である。
- 路線バスは、通勤客が多くて、気を遣うため乗りづらい。半面、循環バスは、落ち着いて乗ることができる、という意見を高齢者から聴いている。高齢者にとって、循環バスを利用できることは、住みやすいまちの要因になっているのではないかと思う。循環バスの意義は、もっと評価されるべきである。
- 子育て世代に聴くと、朝霞市は住みやすく、子育てもしやすいため、気に入っているという意見が多い。住宅の購入を考えている市民が、朝霞市で住宅を購入し、引き続き住み続けるような施策を考えるべきではないか。朝霞市に人が代々住み続けることで、地域に対するふるさと意識も時間をかけて醸成されていくのではないか。
- 地域イベントが、春夏秋冬、さまざまな場所で開催されることによって、多くの人々がそれを目にする。このような事業を増やし、積極的にPRしていけば市の魅力に繋がると考える。
- 都内では車窓から線路脇の住宅しか見えないことも多いが、朝霞を走る電車からは黒目川や新河岸川、荒川や畑などさまざまな風景を見ることができる。SNSだけではなく、車窓からでも地道なプロモーションができるのではないか。
- 先日、本田美奈子・ミュージアムのオープニングセレモニーが話題となっていた。市はそれを使ったシティ・プロモーションに取り組んでも良いのではないか。また、朝霞市でも朝霞出身の芸術家やアスリートを集めてコンサート等のイベントができるはずであり、市は積極的に主導していくべきである。子どもたちに対し、地域からすばらしい人が出ていることを広報し、周知していくことで、ふるさと意識が醸成されると思う。

基本目標	2	地域の特色を活かした選ばれるまちづくり
取組方針	(1)	朝霞市の魅力の再発見と活用による、特色あるまちづくり
担当課	まちづくり推進課、道路整備課、みどり公園課	
概要	交通、自然、環境等、本市の特色である「住みやすさ」を強化するため、利便性の高い鉄道交通の強みを発揮できるよう、多様な市内交通環境の充実を図るとともに、魅力ある居住環境を整備し、地域の特色を明確にする。	

1. 重要業績評価指標(KPI)

指標名	単位	策定当初	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
		目標(年度)	目標	目標	目標	目標	目標
		実績(年度)	実績	実績	実績	実績	実績
① 市内循環バス利用者数	人	407,000 (H31)	375,000	383,000	391,000	399,000	407,000
		382,061 (H26)	396,962	400,135	393,437	—	—
② 歩道整備延長(累計値)	m	76,790 (H31)	76,310	76,430	76,550	76,670	76,790
		76,191 (H26)	76,289	76,438	76,658	—	—
③ 公園・緑地管理ボランティア団体数	団体	19 (H31)	17	17	18	18	19
		17 (H26)	19	20	20	—	—
④							
⑤							

2. 進捗状況(KPIの達成状況、未達成の理由等について説明)

<p>①市内循環バス利用者数</p> <p>【運行概要】 路線数(4路線、運行距離33.29km、バス停数70箇所、運行数平日83本、休日69本) 乗車人数 393,437人、1日平均1,083人</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成29年10月1日に、朝霞市内循環バス「わくわく号」運行見直し方針に基づき、運行見直し並びに上内間木地域での社会実験を実施した。 運行数は、平成29年10月の運行見直しにより減便となった。 利用者人数は、前年比減となったが平成29年度目標を達成することができた。 <p>【運行見直し】</p> <ul style="list-style-type: none"> [膝折・溝沼線]一部ルート変更と増便 [根岸台線]バス停の追加 [内間木線]一部ルート変更と上内間木地域を循環する内間木線(循環経路線)の新設 [運賃]乗り継ぎ運賃の無料化 <p>【内間木線社会実験】 上内間木地域に循環系路線を新設し、公共交通空白地区の改善を図る。概ね3か月ごとに利用状況を把握し、必要に応じて柔軟にルート等を見直すことで、地域特性に合った運行形態を検討している。</p> <p>②歩道整備延長(累計値) 地権者から歩道用地の協力が得られ、目標値に掲げた整備延長を達成できた。</p> <p>③公園・緑地管理ボランティア団体数 公園・緑地管理ボランティア団体数で、目標を上回っている。会員の高齢化により1団体(宮戸ハケタ公園)解散することになったが、一部の会員が新たな団体を設立したため団体数に変更はなかった。</p>
--

3. 今後の方針(主な取組に変更があれば記載)

<p>①市内循環バス利用者数 社会実験を実施している上内間木地域を含め公共交通空白地区への対応や市内循環バス全体のサービス向上にかかる経費の受益者負担等について、住民の意見を取り入れながら、朝霞市内循環バス検討委員会で検討を行っていく。</p> <p>③公園・緑地管理ボランティア団体数 引き続き公園・緑地管理ボランティア団体の募集を行う。</p>
--

基本目標	2	地域の特色を活かした選ばれるまちづくり
取組方針	(2)	ふるさと意識の醸成
担当課	地域づくり支援課、産業振興課、文化財課	
概要	市民が幅広く参加できる行事を定期的に行い、地域の一体感、団結力を感ずることができるまちづくりを進めるとともに、地域固有の歴史・文化を伝え広めることで、市への愛着、ふるさと意識の醸成を図る。	

1. 重要業績評価指標(KPI)

指標名	単位	策定当初	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
		目標(年度)	目標	目標	目標	目標	目標
		実績(年度)	実績	実績	実績	実績	実績
① 地域イベント参加者数	人	770,000 (H31)	770,000	770,000	770,000	770,000	770,000
		755,000 (H26)	730,000	795,000	801,000	—	—
② 博物館入館者数	人	53,200 (H31)	63,000	52,300	52,600	52,900	53,200
		48,605 (H26)	50,052	49,819	41,810	—	—
③ 旧高橋家住宅来園者数	人	11,760 (H31)	11,000	11,640	11,680	11,720	11,760
		11,186 (H26)	13,177	14,161	13,343	—	—
④							
⑤							

2. 進捗状況(KPIの達成状況、未達成の理由等について説明)

<p>①地域イベント参加者数 目標を達成しており、また、昨年よりも実績を伸ばしている。朝霞の四季のイベントとして、春の「黒目川花まつり」、夏の「彩夏祭」、秋の「アートマルシェ」、冬の「北朝霞どんぶり王選手権」が市内外に広く認識されるようになったことが要因と思われる。</p> <p>春【黒目川花まつり】35,000人(H29)、45,000人(H28) 夏【彩夏祭】710,000人(H29)、700,000人(H28) 秋【アートマルシェ】30,000人(H29)、25,000人(H28) 冬【北朝霞どんぶり王選手権】26,000人(H29)、25,000人(H28)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ協議会に市民まつり補助金22,900千円及び市制施行50周年記念事業補助金1,000千円を補助 ・よさこい鳴子踊りに参加する市内中学校5校、小学校1校に合計600千円(各校100千円が上限)を補助 ・新たによさこい鳴子踊りに参加する小学校1校に1,000千円を補助 ・市民まつり実行委員会の事務局運営 ・来場者数は3日間で約71万人と過去最高になった <p>②博物館入館者数 平成29年3月21日から引き続き4月21日までが空調機修繕による休館と、年間を通じた天候不順等により入館者が減少した。</p> <p>③旧高橋家住宅来園者数 秋期の天候不順の影響等により前年度比では入園者が減少したが、市ホームページやフェイスブック等各種媒体を活用し広報した効果等により目標値は達成した。</p>
--

3. 今後の方針(主な取組に変更があれば記載)

<p>①地域イベント参加者数 各イベントの主催者と協議しながら、イベント内容充実を図っていく。</p> <p>彩夏祭 ・鳴子踊り参加促進支援事業補助金について、2回目以降の参加に係る補助上限額10万円を継続するとともに、市内小学校の参加について調整を図る。 ・コミュニティ協議会及び市民まつり実行委員会のあり方について、他の事例等を研究する。</p>
--

基本目標	2	地域の特色を活かした選ばれるまちづくり
取組方針	(3)	朝霞市の魅力を発信するシティプロモーション
担当課	シティ・プロモーション課(平成29年度は市政情報課が担当)	
概要	朝霞市の魅力と、一体感のある地域性を市内外へ積極的に情報発信することで、対外的には朝霞市への知名度の向上を図り、市民に対しては朝霞に住んでいることを誇れるようなまちづくりを進める。	

1. 重要業績評価指標(KPI)

指標名	単位	策定当初	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
		目標(年度)	目標	目標	目標	目標	目標
		実績(年度)	実績	実績	実績	実績	実績
① 朝霞市フェイスブックページのファン数	-	2,000 (H31)	1,100	1,400	1,600	1,800	2,000
		842 (H26)	1,384	1,630	1,802	—	—
②							
③							
④							
⑤							

2. 進捗状況(KPIの達成状況、未達成の理由等について説明)

<p>①朝霞市フェイスブックページのファン数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝霞市の魅力等を積極的に情報発信することにより、KPIの年度目標を達成できた(平成29年度更新実績316件)。 ・フェイスブックページファンの数は県内6位であった(平成30年1月31日時点)。 ・市制施行50周年記念映像「OKAERI」が日本広報協会主催「平成30年全国広報コンクール」の埼玉県審査で、特選(県内1位)を受賞した。 <p>【リアクション数が多かった記事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年も熱かった彩夏祭(8月9日) ・ASAKA ILLMIEGION(11月27日) ・溝沼子どもプールがオープンします(6月15日) ・カルガモ親子の救出劇(6月9日) ・浜崎黒目花広場ではポピーが見頃です(5月22日) <p>【市制施行50周年記念映像 OKAERI】</p> <p>家族とは、地域とは、親子とは、人生とは。 そしてやさしさや強さとは・・・。 主人公チエ家族が 古くて、新しい問題に真っ正面から向き合い、 等身大の個性で描き出していく5篇のショートドラマ(全17分)。</p>

3. 今後の方針(主な取組に変更があれば記載)

<p>①朝霞市フェイスブックページのファン数</p> <p>今後も継続的且つ効果的な情報発信に努めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年4月1日よりシティ・プロモーション課を新設し、今後はさらに広報、シティ・プロモーションを効果的に取り組んでいく。
--

基本目標3. 子どもを生み・育てやすいまちづくり

子育てにかかる様々なニーズに応じた環境づくりを地域との連携により実現するとともに、子どもたちが通いたいと思える魅力ある学校教育を推進することで、子どもを生み・育てたいと思えるまちを目指す。

数値目標	単位	策定当初の実績値	目標値	備考
合計特殊出生率の維持・向上	—	1.45	1.50	1.35～1.5で変動する状況を安定させ、近年の上昇傾向を維持する
		(H22～H26の 平均値)	(H27～H31の 平均値)	
就学前後0～9歳の純移動数の向上	人	-100	0	子育て世帯の転出超過の状況に歯止めをかけ、0～9歳の純移動数(転入－転出)を好転させる
		(H24～H26の 平均値)	(H29～H31 の平均値)	

審議会コメント

- KPIにある「②こども医療費助成制度における、対象こども1人当たりの年間受診件数」だけからは、疾病の重篤化を防ぐことができたのかどうかの判断が難しい。補足する指標等、他に適当な指標がないか、再検討してほしい。
- 子どもの健康診断等について、もし働く女性や母親を増やすまちづくりを考えるのであれば、土日や祝日の検診を充実させてはどうか。市の魅力の一つとなるはずである。
- 保育園や放課後児童クラブに関連し、ファミリー・サポート・センターの仕組みがある。実際に多く人に利用されていて、働くお母さんの大きな手助けとなっていることから、病児保育等も含めて、市の魅力となるのではないか。
- 溝沼子どもプールは、わくわくどーむとともにすばらしい施設である。夏休みに行かない子どもはいないのではないかとはいく、朝霞市の多くの子どもが繰り返し利用している。学校のプール開放が少なくなっていることもあって、まちの魅力の一つである。
- 朝霞市には黒目川に代表されるように優れた自然環境があるのだから、自分たちが住んでいる地域の環境を知ることなど、いわゆる偏差値として現れるような教育だけでなく、もう少し生きた体験を子どもたちにさせるべきである。自然を知ることや職業を体験することなど、体験教育を通して、子どもたちに将来の夢について考えさせることも勉強である。
- 英会話学校などの語学スクールに決して安くはない授業料を支払い、語学の勉強をしている子どもが多い状況ではないかと思う。朝霞市においても外国人の世帯が増えているという話があったので、語学交流会やランゲージエクスチェンジ等のイベントを市で取り組んではどうか。

基本目標	3	子どもを生み・育てやすいまちづくり
取組方針	(1)	妊娠期から子育て期にわたるまでの切れ目のない支援体制の構築
担当課	健康づくり課、こども未来課	
概要	妊娠・出産・子育てにわたる切れ目のない支援体制を構築し、子育て世帯の孤立を防ぐ。	

1. 重要業績評価指標(KPI)

指標名	単位	策定当初	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
		目標(年度)	目標	目標	目標	目標	目標
		実績(年度)	実績	実績	実績	実績	実績
① 専門職が面談する妊婦の人数	人	1,500 (H31)	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500
		55 (H26)	44	39	765	—	—
② こども医療費助成制度における、対象こども1人当たりの年間受診件数	件	1.22 (H31)	1.22	1.22	1.22	1.22	1.22
		1.22 (H26)	1.18	1.17	1.16	—	—
③							
④							
⑤							

2. 進捗状況(KPIの達成状況、未達成の理由等について説明)

<p>①専門職が面談する妊婦の人数 妊娠期から子育て期にわたるまでの様々なニーズに対応し、切れ目のない支援を行うためには、母子健康手帳の交付等とおし、保健師等の専門職が全ての妊産婦等の状況を把握することが必要である。平成29年10月より、子育て世代包括支援センターを開設し、現在、母子健康手帳の交付は、保健センター(健康づくり課)の1か所で、全ての妊婦に専門職が対応できる体制をとっている。</p> <p>②こども医療費助成制度における、対象こども1人当たりの年間受診件数 こども医療費の助成制度により、子どもの受診機会や利便性が確保される中で、疾病の重篤化を防ぐため、早期発見と早期受診を受給者に働きかけるとともに、「コンビニ受診」や「はしご受診」などの不適切な受診の抑制の周知に努めているが、KPIである、「こども医療費助成制度における、対象こども1人当たりの年間受診件数」の年度目標値を達成することができた。 また、こども医療費の助成により、制度の目的である、子育て家庭に対する経済的負担の軽減や子どもの保健の向上と福祉の増進が図られているものとする。</p> <p>○助成対象 通院:0歳児～中学3年生、入院:0歳児～高校3年生 【平成27年度実績】 ・延べ対象児童数: 252,643人 ・延べ受診件数(年間): 297,311件 【平成28年度実績】 ・延べ対象児童数: 266,275人 ・延べ受診件数(年間): 312,562件 【平成29年度実績】 ・延べ対象児童数: 265,978人 ・延べ受診件数(年間): 307,783件</p>
--

3. 今後の方針(主な取組に変更があれば記載)

<p>②こども医療費助成制度における、対象こども1人当たりの年間受診件数 こども医療費の助成制度の在り方や政策効果については、適正受診への保護者の理解や市の財政負担の増大などの課題はあるものの、子育て家庭にとって、経済的な負担の軽減から、子どもの疾病や怪我などに対する早期受診や早期治療が行えることで、重篤化を防ぎ、子どもの保健の向上と福祉の増進につながるものとする。 しかしながら、その一方で、年々増大傾向にある医療費の現状を踏まえ、本制度の費用対効果の検証やその方法も課題である。</p>
--

基本目標	3	子どもを生み・育てやすいまちづくり
取組方針	(2)	様々な保育需要に応じた環境づくり
担当課	保育課	
概要	子育て世帯を支援するとともに、様々な保育需要に応じた環境づくりに努める。	

1. 重要業績評価指標(KPI)

指標名	単位	策定当初	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
		目標(年度)	目標	目標	目標	目標	目標
		実績(年度)	実績	実績	実績	実績	実績
① 待機児童数	人	0 (H31)	0	0	0	0	0
		38 (H26)	47	79	114	—	—
② 放課後児童クラブ入所保留者数	人	0 (H31)	0	0	0	0	0
		57 (H26)	141	101	75	—	—
③							
④							
⑤							

2. 進捗状況(KPIの達成状況、未達成の理由等について説明)

①待機児童数

平成28年度に保育園4園、小規模保育3施設の整備を行い、さらには、平成29年度にも保育園3園、小規模保育3施設を整備し、受け入れ枠を増やしたが、KPIである「待機児童数」の年度目標値を達成できなかった。保育園を申込みれる方は増加傾向にあるため、今後も保育園等の整備を進めていく必要がある。

②放課後児童クラブ入所保留者数

放課後児童クラブは、増加する入所希望に対応するため、一部の小学校の教室等を活用することや、平成28年度には民間放課後児童クラブを2か所整備し、さらには、平成29年度にも民間放課後児童クラブを3か所整備し、受け入れ枠を増やしたが、放課後児童クラブを申込みれる方は増加傾向にあるため、「放課後児童クラブ入所保留者数」の年度目標値を達成できなかった。今後も民間放課後児童クラブの整備を進め、受け入れ枠の確保に努める必要がある。

※実績値(策定当初)の修正について

①待機児童数:第7回審議会(平成28年5月30日開催)で47から38へ修正

②放課後児童クラブ入所保留者数:第7回審議会(平成28年5月30日開催)で141から57へ修正

※①待機児童数、②放課後児童クラブ入所保留者数の実績値について

平成27年度の欄には平成27年4月1日時点の値を、また平成28年度の欄には平成28年4月1日時点の値を記載

3. 今後の方針(主な取組に変更があれば記載)

①待機児童数、②放課後児童クラブ入所保留者数

今後も、「朝霞市子ども・子育て支援事業計画」に基づき、保育園等及び放課後児童クラブの整備を進め、受け入れ枠の確保に努める。

なお、平成29年度の待機児童が114人(旧定義58人)となった状況を踏まえて、待機児童の解消に向けて、平成29年8月に「朝霞市待機児童緊急対策」を策定している。

◆緊急対策1 認可保育園及び小規模保育施設等の新設による定員の拡大

◆緊急対策2 幼稚園の預かり保育の拡充

◆緊急対策3 保育士の処遇改善及び保育士確保のための支援

◆緊急対策4 市指定家庭保育室への支援の継続

また、放課後児童クラブの入所が保留となった小学4年生から6年生までの児童を対象として、下校後にランドセルを背負ったまま直接児童館に行き、遊ぶことができる「児童館ランドセル来館事業」を平成30年4月から開始している。

基本目標	3	子どもを生み・育てやすいまちづくり
取組方針	(3)	魅力ある教育の推進
担当課	教育指導課	
概要	子育て世帯の定住化のため、魅力ある教育を推進する。とりわけ、児童生徒の学力向上のため、望ましい生活習慣の定着及び人間性の形成・人間関係づくりによる心身の健全育成を図る。	

1. 重要業績評価指標(KPI)

指標名	単位	策定当初	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
		目標(年度)	目標	目標	目標	目標	目標
		実績(年度)	実績	実績	実績	実績	実績
① 朝食摂取率	%	100 (H31)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
		99.0 (H26)	99.0	98.7	98.6	—	—
② 全国平均を上回る平均正答率の数	-	全項目 (H31)	全項目	全項目	全項目	全項目	全項目
		3/4項目 (H26)	2/4項目	2/4項目	2/4項目	—	—
③							
④							
⑤							

2. 進捗状況(KPIの達成状況、未達成の理由等について説明)

①朝食摂取率

食育推進啓発リーフレットを作成するに当たり、朝霞市食育推進委員会でアンケート調査を継続的に実施している。1週間における回数に関わらず、朝食を摂取してから登校する児童生徒の割合を指している。平成25年度から向上してきたが、昨年度、今年度はわずかに減少している。朝食の摂取率については、家庭環境との関わりが大きく影響してくる。また、中学3年生においては、部活動を引退し進路選択の時期を迎え、生活が若干不規則になることが、朝食摂取率が下降していることが要因であると考えられる。

②全国平均を上回る平均正答率の数

全国学力・学習状況調査の教科に関する調査、具体的には、小学校第6学年の国語・算数、中学校第3学年国語・数学におけるA問題(主に「知識」についての問題)の達成状況を指標としている。平成29年度につきましては、小学校においては国語、中学校においては数学における朝霞市の平均正答率が、全国平均値を上回った。小学校・算数はわずかに下回っており、中学校・国語については、全国の平均値とほぼ同等となっている。

※平成29年度全国学力・学習状況調査における平均正答率(単位:%)

<小学校>

国語A 朝霞市 78 埼玉県 75 全国 74.8

算数A 朝霞市 78 埼玉県 76 全国 78.6

<中学校>

国語A 朝霞市 77 埼玉県 76 全国 77.4

数学A 朝霞市 68 埼玉県 63 全国 64.6

3. 今後の方針(主な取組に変更があれば記載)

あさか・スクールサポーター等の学校現場への人的配置については、学校規模に応じた適正配置をしていく。また、学校の課題解決に対応した配置となるよう、それぞれの学校の実態を事前に把握する。

基本目標4. 地域の人がつながり、支え合える安全・安心のまちづくり

年齢や障害の有無、国籍等に関係なく、みんなが交流し、支え、助け合う、安全・安心な地域づくりを進める。また、増加することが想定される高齢者の医療費や介護ニーズへ対応するとともに、高齢者の健康づくりや地域活動への参加のサポートなど、地域コミュニティを活性化することで、人と人がつながり、生きがいを持って安心して暮らし続けられるまちを目指す。

数値目標	単位	策定当初の実績値	目標値	備考
近所づきあいがある市民の割合の向上	%	37.1	45	市民意識調査における「日頃からつきあいがある12.9%」、「会えば立ち話をする24.2%」の回答割合を向上させる
		(H25)	(H31)	
生きがいをもっている高齢者(65歳以上)の割合の向上	%	78.3	81	高齢者福祉計画における調査で90歳以上の方の80.8%は「生きがいがある」と回答していることから、65歳以上の高齢者全体がこの割合に到達することを目指す
		(H26)	(H31)	

審議会コメント

1. リタイアした人が地域コミュニティへの一歩を踏み出し難い状況があるという指摘がなされている。例えば、カメラを趣味とする人が写真の撮影に携わる活動をするなど、さまざまな人が得意分野で地域の活動に参加できる場を市が創出することができないか。興味のある分野や得意な分野で活躍できると、楽しさ、やりがい、生きがいを見つけやすいのではないか。
2. 役員の過重負担など、自治会・町内会が制度疲労を起こしているのではないかと考える。一方で、若い世代はSNSなどで繋がっているのも、市としてもネットを介して繋がるコミュニティを認めていくような発想の転換が求められている。時代の変化に合わせて、市民同士をどう結び付けていくかということを根本から見直し、取り組むべきである。
3. 自分が住んでいる地域の自治会や町内会について、情報が入ってこないのによく知らない。自治会・町内会の活動に協力できることがあれば協力したいと考えているが、案内等もないので、活動について知る機会があれば良いと思う。
4. 子どもや高齢者のことについても、コミュニティがしっかり機能していれば、住みやすいまちとなる。子育て世帯が増えて、子ども会のような活動が活発化した町内会もあると聞く。転入してくる市民にどのようなアプローチをするか、市が主導して検討を行い、自治会・町内会に働きかけを行えないか。
5. 最近、PTAに、コミュニティの「C」を加えてPTCAという言葉がある。自治会・町内会は任意団体であり、学校区に合わせて対象区域を見直すことは簡単にはできないものと思うが、学校と地域社会との連携に、もう少し明確に自治会・町内会を位置づけられると良いのではないかと考えている。
6. 地方では、総じて学区と自治会・町内会が同一の区域で、学校の運動会等のイベントに自治会・町内会の住民が総出で参加するなど、お互い気心が知れていて、さまざまな場面で連携協力しやすい土壌があったと思う。朝霞市では、学区と自治会・町内会の単位が入り組んでおり、防災対策、地域福祉の増進などを考えると、人と人が繋がり合えるようなコミュニティの構築は、今後の課題であるといえる。再構築すべき時期にきているのではないだろうか。

基本目標	4	地域の人がつながり、支え合える安全・安心のまちづくり
取組方針	(1)	人と人がつながり、健康で一人一人が自分の生きがいを持てる地域づくり
担当課	生涯学習・スポーツ課、健康づくり課、地域づくり支援課	
概要	地域において、人と人がつながり、健康で一人一人が自分の生きがいを持つことができるよう、文化・スポーツ活動や社会貢献活動を支援する。	

1. 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	策定当初	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
		目標 (年度)	目標	目標	目標	目標	目標
		実績 (年度)	実績	実績	実績	実績	実績
① 文化祭参加者数	人	18,500 (H31)	15,000	17,000	17,500	18,000	18,500
		15,524 (H26)	16,360	13,071	8,118	—	—
② 市民体育祭参加者数	人	10,000 (H31)	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
		9,900 (H26)	雨天中止	雨天中止	9,200	—	—
③ 健康寿命 (男性)	年	17.50 (H31)	17.00	17.20	17.40	17.40	17.50
		17.21 (H26)	17.52	17.83	—	—	—
④ 健康寿命 (女性)	年	20.40 (H31)	20.10	20.20	20.40	20.40	20.40
		19.98 (H26)	20.17	20.51	—	—	—
⑤ 市民活動団体数：団体の施設利用回数 (延べ)	団体	464 (H31)	440	446	452	458	464
		398 (H26)	652	660	525	—	—

2. 進捗状況 (KPIの達成状況、未達成の理由等について説明)

<p>①文化祭参加者数 文化祭参加者が大幅減になっている要因については、発表会場となるゆめばれす(市民会館)が耐震補強工事により長期間使用できなかったこともあり、「芸能のつどい」と「芸能まつり」を一本化にして実施したため実績減となったものである。今後についても文化祭等の実施にあたっては、朝霞市文化協会と協働し、多くの市民が参加し、日頃の活動の発表の場となるよう取り組んでいく。</p> <p>②市民体育祭参加者数 新たに、スポーツ義足体験コーナーや県オリパラ関連ブースを設置し、オリンピック・パラリンピック開催に向けた機運醸成に取り組んだ。また、朝霞市老人クラブ連合会が体育祭へ参加していただいたが、前回の19地区参加から17地区と2地区少なかったこともあり、目標値を達成できなかった要因である。今後においては、1人でも多くの市民が参加できるような内容や参加者の満足度が高められるよう取り組んでいく。</p> <p>③健康寿命 (男性)、④健康寿命 (女性) 平成30年5月現在の最新データが平成28年度であり、平成28年度データは、目標を上回る実績となった。</p> <p>⑤市民活動団体数：団体の施設利用回数 (延べ) 施設修繕や保守点検を適切に行ったほか、市民活動団体が施設を利用しやすいように、施設内のパネル、印刷機、パソコンなどの設置場所を移動し、スペースを少しでも広く確保するなど、利用しやすい環境整備に努めた。また、市民活動団体及び当施設を紹介した「市民活動パネル展」や「あさか市民活動ガイドブック」を、これまでの施設以外の場で実施、配布を行い、広く周知に努めたことなどで、目標を達成することができた。平成29年度の利用回数が減った理由として、利用回数の多かった団体の運営メンバーの交代及び解散などがあったこと、並びに、市制施行50周年記念事業に対する補助金が創設されたことに伴い、従前からの市民活動支援ステーションで設けている補助金の申請(相談)をされなくなったケースなどが考えられる。</p> <p>※実績値(策定当初)の修正について ③健康寿命 (男性)：第8回審議会(平成29年5月26日開催)で16.94から17.21へ修正 ④健康寿命 (女性)：第8回審議会(平成29年5月26日開催)で20.07から19.98へ修正 ※目標値の修正について</p>

3. 今後の方針(主な取組に変更があれば記載)

<p>①文化祭参加者数 朝霞市文化協会と積極的に意見交換を行い、課題を共有して、効果的な文化行政が推進できるように、子どもや初心者向けに芸術文化の体験教室の開催、高校生の参加協力依頼等を行っていく。また、子どもから高齢者まで幅広い世代が芸術文化に触れ、交流できるイベントとなるように努めるとともに、来場者、参加者の増加に繋がるような企画の検討や、PR方法等を工夫していきたい。</p> <p>②市民体育祭参加者数 2020東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、機運醸成企画や1地区でも多くの町内会自治会が参加できるよう取り組んでいく。</p> <p>⑤市民活動団体数 今後も、適切な施設の維持管理に努めながら、市民活動団体及び施設の周知方法等を工夫して、目標達成に向けた取組を進める。また、団体及び施設の利用を増やして行くため、団体及び団体の立ち上げを検討している方からの様々な相談に適切に応えられるよう、担当職員が、研修の受講等を通してスキル向上に取り組んでいく。</p>

基本目標	4	地域の人がつながり、支え合える安全・安心のまちづくり
取組方針	(2)	様々な人々が相互に支えあうまちづくり
担当課	長寿はつらつ課、地域づくり支援課	
概要	子どもから、高齢者、障害のある人、外国人まで、様々な人を受け入れることができ、相互に支え、助け合うことができる地域づくりを進める。	

1. 重要業績評価指標(KPI)

指標名	単位	策定当初	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
		目標(年度)	目標	目標	目標	目標	目標
		実績(年度)	実績	実績	実績	実績	実績
① 多世代が交流できる機会	回	5 (H31)	—	—	3	4	5
		0 (H26)	—	—	9	—	—
② 自治会・町内会加入率	%	48.0 (H31)	60.0	47.35	47.6	47.8	48.0
		47.1 (H26)	44.9	44.5	43.7	—	—
③							
④							
⑤							

2. 進捗状況(KPIの達成状況、未達成の理由等について説明)

<p>①多世代が交流できる機会</p> <p>子どもから高齢者など、多世代の交流事業については、平成29年度より一部を社会福祉協議会へ委託している一般介護予防事業として取り組むと共に、老人福祉センター事業としても取り組み、目標を上回ることができた。</p> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般介護予防事業：工作を通じて子どもや孫達と遊びをとおした交流事業を3回実施 老人福祉センター事業 <ul style="list-style-type: none"> (浜崎) 夏休み子どもとの交流事業として「ミニテニス」2回 「卓球の日」2回 (溝沼) 児童館との交流事業「老センに行こう！」1回 幼稚園児との交流会 1回 <p>②自治会・町内会加入率</p> <p>自治会・町内会に対する補助事業である自治会等運営費補助金は、申請団体に滞りなく交付することができたものの、平成29年1月1日現在の加入率が43.7%と前年よりも0.8ポイント下がったことから、目標は達成できなかった。</p> <p>なお、平成28年12月から平成29年11月にかけて、自治会連合会において自治会・町内会の加入率向上のための検討委員会を立ち上げ、市が事務局となって全6回の会議を開催し、情報の提供や検討の支援を行った。</p> <p>その結果、自治会・町内会加入促進運動を行うことを決定した。</p> <p>(1)街頭活動の実施</p> <p>【第1回】平成30年1月25日実施：市内の駅前にて自治会・町内会への加入を呼び掛ける。</p> <p>(2)加入促進強化月間の設定</p> <p>未加入世帯への個別訪問などを通して、自治会・町内会への加入を積極的に呼びかける。</p>
--

3. 今後の方針(主な取組に変更があれば記載)

<p>①多世代が交流できる機会</p> <p>地域包括ケアの深化・推進を目指す、第7期高齢者福祉計画・介護保険事業計画の、施策目標の一つであります生きがいづくり・健康づくりの推進に向かう、各種取組(表記事業も含)の中で世代間交流をすすめていく。</p> <p>②自治会・町内会加入率</p> <p>自治会・町内会の加入率の減少に歯止めがかからず、また、役員の高齢化や担い手不足も進行している状況にある中で、防災・防犯、子どもや高齢者の見守りなど、自治会・町内会に期待される役割が増えていることから、区割りや規模など、本市における自治会・町内会のあり方を抜本的に見直すことも必要になってくると考える。</p>

基本目標	4	地域の人がつながり、支え合える安全・安心のまちづくり
取組方針	(3)	地域防災の連携を図り、災害に対応できるまちづくり
担当課	危機管理室、地域づくり支援課	
概要	効果的な防災活動を行えるよう、自主防災組織の活動を支援する。また、遠隔地の市町村と締結した災害時相互応援協定について、協定の実効性を高めるために、平常時から互いの顔が見えるような交流活動を行う。	

1. 重要業績評価指標(KPI)

指標名	単位	策定当初	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
		目標(年度)	目標	目標	目標	目標	目標
		実績(年度)	実績	実績	実績	実績	実績
① 自主防災組織の組織率	%	85.0 (H31)	81.0	82.0	83.0	84.0	85.0
		79.9 (H26)	80.0	80.2	81.7	—	—
② 災害時相互応援協定先との交流回数	回/年	5 (H31)	3	5	5	5	5
		1 (H26)	12	12	36	—	—
③							
④							
⑤							

2. 進捗状況(KPIの達成状況、未達成の理由等について説明)

①自主防災組織の組織率

平成29年度は未結成の自治会等のうち、3団体に地域防災アドバイザーと共に自主防災組織について説明を行い結成を促したが、実際に結成につながったのは1団体にとどまったため、目標を達成することはできなかった。

②災害時相互応援協定先との交流回数

- ・災害時相互応援協定締結都市との交流については、目標値を上回る回数を実施したが、「宿泊施設の優待割引サービス」(佐久市)、「化石博物館等4施設共通パスポート配布」(瑞浪市)については、利用が数件に留まった。
- ・平成29年4月26日に越生町と「相互交流に係る覚書」を締結した。
- ・市民まつり開催時の「都市間交流ブース」への出展については、災害時相互応援協定締結先以外にも、高知県のほか、今年度から越生町と西伊豆町が加わった

※災害時相互応援協定先

- ・平成23年9月2日 岐阜県瑞浪市
- ・平成23年10月21日 長野県佐久市
- ・平成24年11月22日 山形県東根市
- ・平成27年8月1日 福島県須賀川市

※交流事業の例

- ・式典、イベント等への出席参加、市長あいさつ(佐久バルーンフェスティバル、佐久鯉まつり、東根市まなびあテラス企画展、須賀川牡丹園園遊会)
- ・都市間交流ブースへの協定先都市の出展(朝霞市民まつり、朝霞市農業祭)
- ・朝霞市民優待制度等の実施(佐久市宿泊施設の優待割引、瑞浪市4施設共通パスポート配布)
- ・朝霞市立小学校の林間学校(佐久市)、朝霞市自治会連合会の視察(瑞浪市)

※目標値の修正について

- ②災害時相互応援協定先との交流回数:第7回審議会(平成28年5月30日開催)で3から5へ修正

3. 今後の方針(主な取組に変更があれば記載)

①自主防災組織の組織率

引き続き地域防災アドバイザーと協力して、未結成の自治会等に出向いて自主防災組織の重要性等を説明するとともに、平成28年度末に完成した防災啓発冊子「あさか防災」の普及促進にも努め、組織率の向上に努める。

②災害時相互応援協定先との交流回数

平成30年度から、新たに東根温泉(山形県東根市)と西伊豆町における市民宿泊優待制度が開始するため、現在実施している佐久市や瑞浪市のほか、相互交流に係る覚書を締結した越生町について、各種媒体を活用して市民に対し周知を実施し、交流の促進を図っていく。